



TITLE:

インフレーション財政策 (新年特別 號)

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. インフレーション財政策 (新年特別號). 經濟論叢 1933, 36(1): 1-22

ISSUE DATE:

1933-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130276>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟叢論

第一號

第三十六卷

昭和八年一月一日發行

新年特別號

インフレーションと財政策	法學博士 神戸 正雄
人口に關する小論	文學博士 高田 保馬
社會的に妥當なる農業經營規模に關するベルンハルデイの見解	經濟學士 八木芳之助
操短と生産費	經濟學士 大塚 一朗
資本論と一般均衡論	經濟學士 柴田 敬
中央銀行役割の發展に就いて	經濟學士 松岡 孝兒
預金通貨の貨幣的性質に就て	經濟學士 中谷 實
ケトレー直後の英佛統計學	法學博士 財部 靜治
土佐の育子策について	經濟學博士 本庄榮治郎
爲替心理説の批判	經濟學博士 谷口 吉彦
宇和島藩の蠟專賣	經濟學士 堀江 保藏
琉球農村共同體 <small>と我國民理想としての</small> 『國民共同體』	經濟學博士 石川 興二
地方財政の改革	經濟學博士 汐見 三郎
漁業組合論	經濟學士 蛭川 虎三
二つのインフレーション	經濟學博士 小島昌太郎
新着外國經濟雜誌主要論題	

（禁 轉 載）

經濟論叢

第三十六卷 第一號

(通卷第百拾壹號)

昭和八年一月發行

インフレーション財政策

神戸 正雄

緒言

我國の財政は此の昭和七年度内に七億八千萬圓の上にも出るほどの巨額の起債を爲すことにし居る。そして次ぎの八年度には之に劣らぬ(十一億圓に上ると豫想せられる)起債さへもするだらうといふ形勢を示して居る。所謂例年行事に屬する新規事業要求は兎に角としても、普通歳入に於ける自然減收の相變らず續きつつある他方に、時局匡救費、滿洲事變費、陸海軍改造費、爲替差損補填金、増發公債の利拂増など、現状としては避くべからざる歳出の大膨張があつて、所詮公債

に依るべきものが多からざるを得ざるの成行にあるのに、斯かる場合には、通例並行して選まるべき行政整理財政整理を伴ふ經費の緊縮、と増税とについて政府が躊躇しつつある事情の下に、公債の起債は巨大の額に達するの外なきものの如くである。其は恐らくは預金部や一般市場にて消化し切れず、勢ひ日本銀行背負込に歸するものが多くなつて、インフレーションは段々と烈しくならう。今迄の處では其が甚しく現はれて居らず、其爲め或者は失望し、他の者は油斷をして居るけれども、其效果は是から次第に發揮され、段々と進展し來るであらう。此際に當り之が本體、影響、對策を攻究して置くのは無意義ではあるまいと思ふから、今茲に之を試みるであらう。

第一段 インフレーションの本質

(一) インフレーションの意義——インフレーションとは何か。其は自明のやうでもあるが、偕て之を定義するとなると可なり¹⁾に六つかしい。或は之を定義して、「隨伴する生産増加に對し均衡の取れざるほどに多量なる通貨の増加」といふがあり、或は「物價騰貴の中に就き金融に關する政府の干涉の結果に屬する部分」といふがある²⁾。其他、色々の定義が出されて居るけれども、私は「經濟界の實需(生産乃至取引上の)に基かずして、政治人爲的に行はるる通貨膨張」となす。此れでも不満足だが、比較的支障少くして其眞髓を擷んで居ると思ふ。

1) Pigou, public finance. p. 256—257.

2) 小島, 經營と經濟, 三卷三號I, 圓地, 國家學會雜誌四十六卷十號, 76

(ニ) インフレーションの實現——インフレーションは、古來其例に乏しとせぬ。併し其最極端な例は之を、最近世界大戰に關聯して獨逸に行はれたものに見る。此國に於ける獨逸帝國銀行券の發行額は左の如き變遷を遂げ、最後には一兆紙幣馬克が一金馬克と同値にまで下るやうになつた。

年 月 日	十億馬克		
一九一四年七月三十一日	二・九	一九二三、	八、十五
一九一五、十二、三十一	六・九	同、	八、三十一
一九一六、十二、三十一	八・一	同、	九、十五
一九一七、十二、三十一	一一・五	同、	九、二十九
一九一八、十二、三十一	二二・二	同、	十、十五
一九一九、十二、三十一	三五・七	同、	十、三十一
一九二〇、十二、三十一	六八・八	同、	十一、十五
一九二一、十二、三十一	一一三・六	同、	十一、三十
一九二二、十二、三十一	一、二八〇・一	同、	十二、十五
一九二三、一、三十一	一、九三四・〇	同、	十二、三十一
一九二三、七、三十	一七、二九一・〇	同、	四九〇、五〇七、四二五、〇〇〇・〇

かかるインフレーションは如何にして起るか。或は政府の直接に紙幣を發行することもあり、或は政府が中央銀行紙幣を借り上げて使ふのによつてもある。此の後のものは、直接中央銀行からの借上金によつてもあり、公債といふ何人も所持し得る流通券を出すによつてもある。此公債應募は凡てがインフレーションになると限らない。例之、一般銀行や箇人などが實

際其手許に死藏しつつあつた通貨、乃至、彼が他人に貸して居つたのを回収して得た通貨にて應ずる場合には、インフレーションにはならず、むしろ其通貨が政府に、随つて中央銀行に戻り來るだけにては、やがてまた外部に出されるにせよ、少くとも一時は通貨の縮少となるのである。特に一旦回収した通貨を政府に、随つて中央銀行に戻したのに於て著しい。(此分は前後を通じて見れば通貨の一時的收縮に止まり、永い間にては増減なしとなる。死藏した通貨が中央銀行に戻る場合には、形式上發行通貨には永い間にも増減なしとなるが、實質的にはむしろ流通する通貨の膨張となる。) 併し此公債應募がインフレーションになることはある。其は中央銀行の新に發行する通貨にて應ぜらるる場合で、其には更に二の場合がある。一は一般銀行、預金部などが中央銀行に當座預金を有つとして、彼等が公債に應ずる爲めに一旦其を引出すことからして生ずるものであり(其はやがて又政府の中央銀行預金となつた上にて段々と其支出に伴ふて通貨が出るやうになる)、其二は中央銀行自ら公債に應募した爲めに、即ち彼の背負込となつた爲めに通貨が政府の爲めに新に出るものである。そして此の如き背負込は、最近の保證準備發行額の八億八千萬圓の擴張、限外發行税の引下によりて一層容易になつた。此二の場合の中、第二のものにては、明かに政府の政略からして、經濟界の實需に拘らず、通貨の増發となつて來たのであるが、第一のものにても、明かに其の中央銀行預金の引出さるるだけは、政略上の原因からして通貨の増發となるのであるが併し此場合には、其前に通貨として流通したものが一旦、回収され又は蓄積されたものであるか

ら、其預入れられたときと、今引出されるときとを通じて見れば、通貨の増減のないのだともいはれ得る。だからして此際には格別の通貨増發がないやうでもあるが、併し夫の預入れの時と引出の時とに間々、可なり長き時の隔りのあることもあつて、矢張り、此引出の際に増發ありと見た方が適切なこともあるし、假りに其時の隔りは短くして殆んど二のものが同時ともいふべきほどで、増發といひ難きことありとしても、此場合、此公債に應募した預金部なり、一般銀行なり箇人なりは、其により得た所の公債證書を擔保として更に結局の處、中央銀行からして借入をすることが出來、政府の使用の爲めの通貨發行の上にも、通貨の膨張發行となり得るのである。⁴⁾(註一)かうにして通貨が市場にあふれてインフレーションを引起し、物價騰貴をも生ずるやうになる。⁶⁾其際、勿論、先づ政府の需要品の價格の騰貴を生じて、次第に他の物にも及ぶことにならう。此場合若も、我國にて正貨輸出が自由となつて居り、兌換も完全に行はれて居るならば、我國に於ける斯かる物價高に對し、外國にて恰かも物價下落あらば一層のことであるが、外國にて物價不動であるか、或は其騰貴があつても其の度合が我國の其よりも低いならば、我國に於て輸出は困難となり、輸入が容易となりて、我國の金の流出を促し、其爲め我が國の銀行券を收縮しなければならぬやうになり、我國の物價の下落を生ずることにもなるが、今日の我國にては恰かも右とは反對に、正貨輸出禁止、兌換不完全なのであるから、此の如き作用は行はれず、通貨の收縮が出來ず、一たび出た通貨は回收せられずして市場に轉々し續けるものが多く、其上にあとから々

4) Shultz, American public finance and taxation. p. 73-74.

5) Tyska, Fw. 2 Aufl. s. 346.

6) Marco, Fw. S. 311.

々出て來つて爲めに物價騰貴がむしろ段々と増長して往くことになる。然るときには、國費は先づ物件費が愈々増大し、人件費も或度まで増さなくてはならぬことになり、獨り政府の義務費中、舊時代の内國公債の元利拂だけは増加するに及ばぬけれども、同じ義務費中にても外國拂の分は増加し、益々増發される公債の利拂も自ら増加し、内地の團體乃至個人への交付金補助金の如きも増加する必要に迫られるであらう。之に對しては自ら歳入にも段々自然増加が現はれるやうになつて、之を補充することも或度までは望まれるけれども、其の不十分なだけにては赤字公債の起債となつて、インフレーションを増長することとならう。此に前記の事情下に輸入超過や、インフレーションに因る此國貨幣への不信などによりても爲替相場の下落が起り得るが、夫の金輸出禁制下には一層此が烈しくなつて來る可能性を有つ。其は此國の商品の輸出には一應は有利なる條件となり、國民が巧みに之を利用するならば、ドシ々々輸出を生じて、我國から正貨の流入さへも齎らし得るが、そして其により中央銀行の準備金の増大ともなり、此正貨を土臺とした通貨の膨張を生じ得る筈だが、今日の我國情下に、少々位の輸出増大にては、却々、我國の對外支拂超過には應じ切れず、尙其上に、前記、輸出促進とても、他方、爲替不安定と外國に於ける一般的なる關稅引上と、恰かも我爲替安に基く競争力の増大に對抗する爲めの關稅引上とがあつて、大したことの出來兼ねるといふ事情にあつて、洵に我國の財政經濟は迷路に踏込んでしまつた。

(註一) 交付公債にては、此にいふ政府の現金使用による通貨膨脹はなく、たと受領者が之に基き銀行から借入することから生ずる通貨膨脹の可能性がある。

第二段 インフレーションの影響

前段インフレーションの本質を説いて、其影響の大綱をも述べた。が茲には、之を分析して詳説して見やう。

(一) 物價随つて貨幣價值上の影響——インフレーションの本質的に重要な影響は即ち此物價上の其であつて、

(A) 物價騰貴——といふことが之が影響の第一である。通貨數量説論者のいふほどに通貨數量が強い働きをしないとしても、此數量が或度まで物價を騰貴する傾を有つことには反對し得ない。其國に於ける通貨が多くなつたとすれば、貨物に對するの需要は自ら前よりも増加し、供給は反對に一層差控へられて、物價を引上ぐるやうになる。インフレーションは矢張り此作用を伴ふのであり、其上に、後にもいふやうに其場合、其國貨幣に對する信用が低下して爲替相場の下落を促すこともあつて、其れもが夫の勢を助長する。

(B) 物價不安定——インフレーション時代には、其通貨膨脹が政治人爲上の原因から即ち或度までは政治家の恣意にかかり、且つ經濟界にても之につき盛んに投機的行動に耽ることになつて、

自ら物價は安定を得ぬやうになる。即ち此が物價の安定を紊るといふべきである。前にあげた物價騰貴といふ事には長短得失並び存するのだが、此にいふ物價不安定に至りては、弊あつて益、殆んど之に伴はず、人々の生活の上にも、堅實なる産業の上にも、斷じて有利なものではない。

(二) 國民所得及國富上の影響——インフレーションの結果は、凡べて貨幣名目にて表はされる所得及財産の實價を低下することとなり、其は前にいふ名義上の物價騰貴によりて埋合せの得らるるだけは、差引して實質上に無影響といふことになるが、其の名義上の騰貴の不十分にしか生ぜぬものがある。其れだけにでは、國民全體上も、個人經濟にとりても不利であり、其の爲めの國民經濟にとりての損失は相當に大いものたり得る。

(三) 國民所得及財産の分配上の影響——インフレーションに因る物價騰貴は其國民中に及ぼす影響が均等ではない。之にて確かに不利を被むるがあり、格別の利を受けぬがあり、更に他のものは之によりて利益を受ける。即ち國民中の所得財産狀態に變動を生じ、貧富の懸隔を大ならしめ、分配の不公平を來たす。其からの利害の異なる者を列舉すると、左の通りである。

(A) 所得財産に損害を受くるもの

(い) 現金所持者、預金者、貸金者、公社債の持主、恩給權者の如く、其所得財産が貨幣名義にて一定して居るものは明かに、貨幣價值が低下するだけ、其所得財産の減少を受けることになる。¹²⁾ 此は所謂、有産者の一部であるが、併し無産者といはるる勤勞者中にも多少、此資格を兼ねるこ

7) Marco, a. a. O. s. 321.

9) Marco, a. a. O. s. 312.

10) Tyszká, a. a. O. s. 347.

11) Birck, The public debt. p. 86. 98.

12) Pigou, l. c. p. 267. Bele Földes, a. a. O. s. 624. Brown, The economics of taxation. p. 21-22.

8) Englis, Fw. s. 247.

とがある。そしてインフレーションの結果として此種の有産者は獨逸では乞食にまでなり下つたともいはれる。¹³⁾ 此階級者は、政府が増税か増債かを選まうといふときに、動もすれば増税に極力反對するけれども、實の處増税ならば所詮、其負擔として所得中の百分の幾つを加へらるるのに止まるに、増債の結果として少々公債の元本價位の低下する位で済めば忍ばれるけれども、遂にインフレーションとなり、ド、のつまり乞食になり下ることのあるを見るときには少しく考直さなければならぬ。それから此種の者の中にも詳しくいふと、地位の多少異つたものがある。即ち

(1) 長期の預金者貸金者は期限中に、元金を引出して貨幣價値のまだ大して下らぬ間に他に利用の途を求むることも出來ず、期限中は利子も上げて貰へず、インフレーション時代に入ると大に不利を見出す。

(2) 現金所持者は勿論其現金の價値は下るが（金貨ならば此損害なくして済む）、併し貨幣價値が未だ々々下ると思へば、直ちに適當の處理を考ふることも出來、其れだけに有産階級者中にては比較的有利なる地位に立つ。

(3) 短期の預金及貸金者は其期限の短きだけ長期の其よりは有利である。併し其期限のあるだけ現金所持者に比しては尙、不利である。

(4) 公社債券所有者は、其所持をつづけるとすると、長期の貸金者と同様に不利であるけれ

ども、此は其債權が幸にして流通證券となつて居るので、將來を見越して速かに賣拂つて現金に換え、随つて現金所持者の有利な地位を取ることが出来る。尤も此賣却の際に、或は初めの買入れ値段に比して遙かに低き代價しか得られずして損することもあり得べく、その場合には現金所持者に比して不利である。但し短期貸金者の如く、短いながらも期限の束縛あるものに比しては、急速に機會を掴むのに有利な點もある。但し短期貸金者ならば期限に來れば元本の全額を收めることが出来るけれども、公社債券の持主だと元本金額を遙かに割つた代價しか得られぬといふことがある。

(ろ) 勤勞者

(1) 俸給者特に官吏公吏——は、物價が上るにつれて其所得を増加することの六つかしきもので、¹⁴⁾此人達がインフレーションによる物價騰貴で先づ困る。¹⁵⁾其所得が物價につれて引上げられても、其は程度が間々不十分であり、且つ特に常に其よりも餘程後らされるので困る。¹⁶⁾彼等の中にも眞面目に思慮深く生活を爲しつつあつた者にして、貯金や公債などを有つて居るものは、其方の價值低下によりても二重に困る。

(2) 勞働者——にありては、前者に比しては概して一層速かに且つ十分に物價に追隨して其所得の増加する可能性を有ち、特に彼等の間に共同組織を有つに於て一層確實である。それでも此所得増加が往々にして物價に追隨せぬことがあり、又多少、其よりも後れて生ずることがあつ

14) Birck, l. c. p. 97.

15) Bela Földes, a. a. O. S. 624.

16) Brown, l. c. p. 21.

て、其れだけにては困る。また之を達成する爲めに間々、痛ましき争闘を経なければならぬといふこともある。

(B) 所得財産が實質的には格別の損害を受けざるもの——としては土地家屋有形動産の持主を舉ぐるを得る。此等の者にありては貨幣價值は下つても、恐らくは其に匹敵するだけ（此に精密に匹敵するとはいひ難い。多少の超過又は不足を見る）、物の價格が上ぶることになつて、優に埋合せが得られて實質的に經濟上の地位を維持することが出來やう。だからして此人達は、茲に増税かインフレーションかといはれたら、むしろインフレーションを選むであらう。ただ併し乍ら、彼等にありても、其財産元本價格は物價に伴れて上つても、其所得たる地代や家賃などが契約上、一定期間固定し、貨幣名義による其が上らざる爲めに困るといふこと¹⁷⁾、其所得たる通貨によりて買ひ得らるる消費品の、前よりも少きことにて困ることのあり得べきを覺悟しなければならぬ。

(C) 所得財産を多少増加し得るもの

(い) 金錢債務者——に至りては、インフレーションによる貨幣價值低下によりて、最明かに其負債の負擔を輕易と爲し得る¹⁸⁾。嘗て借金して得たる通貨にて土地建物などを買取り置きたる者の如きは、大なる利得を爲し得る譯である。

(ろ) 農商工業者、株主等——の如きも大體利得する。農商工業者は安き時に買入れたる材料を使つて物を作り、其を高く賣却し、又は安く買入れた商品を其儘にて一層高價にて賣却し得る。

17) Marco, a. a. O. s. 315.

18) Brown, l. c. p. 21.

19) Marco, a. a. O. s. 315. Brown, l. c. p. 22. Birck, l. c. p. 97. Lawrence, The national debt. p. 40.

つまり彼等は物の賣買に關聯して景氣及投機利得を得るの可能性を有つ。²⁰⁾株主は會社が有形財産を有ち賣買加工に關係するだけにて、インフレーションから利得する結果を享受することが出来る。また特に農業者の如き積年の負債の多きに苦しみつつありたるものが、インフレーションの結果として之を無に歸せしめることも出来る。²¹⁾だからして此連中は増税かインフレーションかといはれると、後者を選ぶの傾向が最強い。

(四) 産業活動上の影響

(A) 其諸條件上の影響

(い) 眞面目なる經濟道義を消磨すること、詳しくいへば努力心、貯蓄心を乏しからしめ、却つて投機射倖欲を増長し、怠慢浪費の風を助成すること、——此がインフレーションの最重大なる弊害といふても良いものである。即ち上にもいふ如くで、インフレーションの結果、諸多の者特に産業者の如きは實際其努力によらずして前よりも一層其經濟上の地位を高めるので、自ら浪費乃至奢侈に耽るやうに促がされる。²²⁾其ばかりでない。其の持つ所得財産の貨幣名目上の價值の大いだけでも、其實價が別に大きくなつたのでないにも拘らず、一層、富んだといふ氣持になつて浪費に陥るといふこともある。²³⁾他方には一般に人が其の現に有つ通貨の價值が將來もつと下ると思ふので、之を貯蓄するよりも今の内に早く消費しやうといふことに誘はれるも少くない。²⁴⁾そして此時代には眞面目に努力せずとも、爲替投機、貨幣投機、商品投機によりて一瞬時に巨利を占め

20) Moll, a. a. O. s. 666.

21) Moll, a. a. O. s. 125.

22) Birck, l. c. p. 34-35.

23) Pigou, l. c. p. 268.

24) Bela Födes, a. a. O. s. 624. Pigou, l. c. p. 268. Tyszka, a. a. O. s. 347.

る機會があつて、此の投機を獎勵し、爲めに努力の氣風が失はれる。但し社會の一部には、所得の實價の減少する爲めに、非常なる苦痛の下に消費を節しなくてはならぬ者の存することは事實であり、彼等は自ら自暴自棄に流れる傾がある。

(ろ)資本の外國逃避を助長すること——上にいふ如くにして、インフレーションの結果、貯蓄心の乏しくなる爲めに、資本成形を妨ぐるのに加へて、既存の動的資本が將來に於ける價值減退の不安を逃れやうとして、一刻も早く外國に逃げて往かうとする。茲に之が防止の法令が出ても法網をくぐつてまで抜け出さうとする。

(は)金利の下落——前記、貯蓄の不振、資本の外國逃避からいへば、益々資本の缺乏を促がして、金利の騰貴を生ずべき筈であるけれども、金輸出禁止の下にインフレーションの行はるる際の如き、資金が人爲的に多く供給せられて、金利が自然的にあるべきものよりも、低く維持せらるることともならう。

(に)爲替相場下落——前にいふ資本逃避、金利の下落は、其國通貨に對する不信と共に、爲替相場の下落を生ずる傾があり、其は或度まで諸産業の爲めに關稅引上と同じ効果を齎らす。即ち外國との競争下に立つ内地産業の發展を助け、輸出を進めるといふことになる。併し我國の如く輸出品の少くとも一部のものの原料や食料品につき外國に仰ぐこと多きに於ては、齊しく爲替安の爲めに輸出品が高くならなくてはならぬやうにもなるし、爲替の不安定が輸出上の妨げとな

25) Birck, l. c. p. 97.
26) Marco, a. a. O. a. 311.
27) Moll, a. a. O. s. 369.
28) Pigou, l. c. p. 262.
29) Birck, l. c. p. 97.
30) Birck, l. c. p. 97.

31) Tyszk, a. a. O. s. 347.

るといふこともあるし、インフレーションによる内地の物價騰貴が甚しくなるに於ては、爲替下落の度合が之に及ばぬだけにては、輸出の有利といふ事も、やがて失はれて往かなくてはならない。特に外國をして我に對する對抗の爲めに關稅を引上げしむるに至ることもあり、更に偶々、外國にて物價下落でもあるに於ては一層不利ともなる。

(B) 産業活動上の影響

(い) 投資の方向——は、かかる場合には堅實なる産業よりは、むしろ投機的奢侈的事業に向ふことになり、即ち不良なる投資方向を選ましめて、資本の浪費を多からしめる。

(ろ) 生産の促進——併し兎も角も、物價騰貴の傾ある限り、作れば利ありといふことになつて一時、産業を刺激し、³²⁾其上にも其利用する資金の利子低く又は其が高くなつても其は返金の値が借りた時よりも小なものとなつて居ることにより裕に償はれることが出来、以前には立行き兼ねて居つた産業にもよく存立し擴張するの機會を有たしめる。³⁴⁾

(は) 輸出の促進——元來、金輸出解禁の常態であれば、インフレーションに依る物價騰貴は、輸出難、輸入易となるべきだが、³⁵⁾金輸出禁制下のインフレーションだと、爲替下落があつて、一時、輸出を助長し促進することにもなる。けれども間もなく、物價騰貴が烈しくなつて、爲替下落の度を超へ、爲替不安定も加はつて、輸出を不利ならしめ、國際貸借關係をも不利ならしめる³⁶⁾といふこともある。

32) Birck, l. c. p. 97.

33) Marco, a. a. O. s. 327.

34) Marco, elenda.

35) Pigou, l. c. p. 262. Birck, l. c. p. 91.

36) Birck, l. c. p. 97.

(五) 財政上の影響

(A) 豫算上——(い) 此時代には政府の豫算は益々膨脹し、(ろ) 而かも其中でも特に経費が大體益々膨脹して往くのに、歳入に至つては前年の分に基きて見積られるのが通例なので、自ら歳出の増加に伴はずして赤字となる。³⁷⁾ 特に其が結局、投機者の爲替、金利、物價を左右するのに影響されることの多き爲めに、一國財政が其國及外國の投機者に左右されるといふの結果にもなる。³⁸⁾ (は) それから技術上には、豫算の見積りが困難になり、特に歳出の如き見積りのしやうなきものが、澤山³⁹⁾にあるやうにもなる。

(B) 経費上——インフレーションによりて経費の膨脹の甚しくなることは上にもいふ通りだが、詳しくいふと、特に物件費は必然に増長し、官吏の俸給等、人件費とても益々増加しなくてはならぬやうになる。⁴⁰⁾ 補給金交付金の一部、公債元利拂費の一部も増加しなければならぬが、ただ金額にて特に長期間、確定したる補助金交付金、舊來の内國公債元利拂費の如きは其儘にして置くことが出来る。そして斯やうな経費の膨脹といふことは、堅實なる歳入にて賄ふといふことにすれば却々厄介な事になるけれども、公債又公債、紙幣又紙幣によると度胸をきめてかかれば何等の苦心は入らぬことかも知れない。

(C) 歳入上——には、かかる時代には自ら廣義の公債に依ることが多くなる。此が租税に依ると比較して其を擧ぐる爲めの費用が少くして濟み、⁴¹⁾ 人民からしての抵抗を受くることも少くして濟

37) Birck, l. c. p. 87.
38) Birck, l. c. p. 97.
39) Tyszk, a. a. O. s. 347.
40) Marco, a. a. O. s. 314.
41) Marco, a. a. O. s. 312.

42) むからである。

(D) 租税上

(い) 租税的效果——インフレーションは財政には形式上、むしろ公債として現はれ、公債として政府に収入を持來たすものであるけれども、公債其ものとしての影響の外に、潜みたる租税となり、結果に於て租税を課したと同じになる。43) 或は之を以て財産移轉税の一種とし、臨時財産税と見るもあるほどである。44) 即ち此が物價騰貴を生じ、貨幣價值を下げるだけ、前にもいふやうに社會の澤山の人々に其所得や財産を減少せしめることに於て租税を課したと同じ結果を齎らす。そして其負擔は(1)決して有らゆる人々に公平に置かるるのではなく、恰かも金額にて固定した所得者だけに之を課して、其から得たものを他の人民の塊に贈與したといふ結果になる。45) 洵に税としても不公平至極なものであり、そして其により不利を受くる人が元來、給付能力の大なもののみであれば、まだ恕すべきだが、恰も其中には給付能力の乏しき階級が存するに於て一層不公平である。46) 勿論、此にて課税率として理想的なる累進の如き負擔の均衡を得ることは到底出來ない。47) (2)而かも此課税が公然と行はれず、知らず識らずの間に行はれて居るといふのは一の不道義ともいふべく、理想的財政には反するものである。此終の點にては丁度、間接税と似て居るが、第一の不公平の點からいふと、其よりも以上に不都合なものである。

(ろ) 既存税への影響

42) Marco, ebenda.
43) Moll, a. a. O. s. 113. 297. Brown, l. c. p. 14. Pigou, l. c. p. 266. Birck, l. c. p. 89.
44) Marco, a. a. O. S. 325.
45) Pigou, l. c. p. 269.
46) Moll, a. a. O. s. 113.
47) Pigou, l. c. p. 266.
48) Moll, a. a. O. s. 299.

(1) 其公平を破る——從來の税制はインフレーションの爲めに破壊せられる。⁴⁹⁾ 不公平となる例之、從價比例税(特に最近の價值を標準とするもの)たるものは比較的に事情の變化に順應して負擔の均衡を保つけれども、從來の税制の中心を成したる所得税の如き從價累進のものは遂には無意義のものともなり、大體、段々と下級所得者に過重負擔ともなる。古き標準による從價比例税、從量税、定額税、階級税も凡べて過輕負擔となるのである。⁵⁰⁾

(2) 租税賦課を困難ならしめる——即ちインフレーション時代には個人、法人の所得財産の狀態が斷へず變動して、租税賦課の爲めに之に追隨することが出來ず、或時點に於ける評價は出來ても、或期間中の收益、所得の集計の如きは無意義なものとなつてしまふ。一旦之を決定しても、さて徴收の時になつて見ると、其が全く不適切なものとなつてしまふ。

(3) 租税收入に自然減を生ずる、⁵¹⁾——其はインフレーションが諸多の税源を減少し又は涸渇することがあるからである。⁵²⁾ また税率によりては貨幣價值の低下に隨つて其税收入を増加し得ざるもあり(古き價に従ふ從價比例、從量、定額、階級)、從價(最近の)比例率從價累進率を有つ税にては、税收入は増加するけれども、此れとて其購買力が減少して、全體上、増大したる經費には應ずるに足らぬといふことになる。

(E) 公債上

(い) 公債の増加——インフレーションは公債の増發を伴ひ、其れだけ其公債の元利拂につき後

49) Bela Földes, a. a. O. s. 624, Terhalle, Fw. s. 533.

50) 租税研究六卷35, 以下

51) Moll, a. a. O. s. 369. Tyszka, a. a. O. s. 347.

52) Terhalle, a. a. O. s. 533. Ehebeger, Grundriss der Fw. 5 & 6 Aufl. s. 179.

53) Ehebeger, ebenda. Marco, a. a. O. s. 311.

世に累を加ふることになるのだが、かくて起債によりて政府に入り来る通貨の實價が小くなるので、⁵⁴⁾段々と割合に多くの公債をも増發しなければならなくなる。⁵⁵⁾尙ほ又、前記(B)、(D)の(ろ)の(3)の影響としても公債増發を助長する。

(ろ) 國家信用の低下——インフレーションをやれば、公債の増加となることは上にいふ如くで随つては其國の信用を低下するは必然である。⁵⁶⁾其爲めには、將來の起債が困難となり、益々不利なる條件にて起債せざるべからざることになる。

(は) 公債の實價の減少——右にいふ國家信用の低下からいへば不利なることは明かだが、他の一面、インフレーションの續く限り、かくして累積する公債の元利金の實價は段々と小なものとなり、其の起債したときの價值に比しては益々小さいものとなり、随つて國家の債務者としての地位は益々有利になるといふことがある。⁵⁷⁾かくて此際を利用して國債を返すならば(そして有期隨時拂にては此事が容易に出来る)、殆んど不履行と異らぬやうになり、⁵⁸⁾國家は殆んど勞せずして大な厄介を免るることになる。即ちインフレーションは、公債負擔を輕減する最不思議なる方法といふを得る⁵⁹⁾ただ其反面に、國民中に非常なる損害を受くるものの存することを忘れてはならず、又此方法が内國債だけに行はれて、外國貨公債に及び得ぬことも之を忘れてはならない。⁶⁰⁾

第三段 インフレーションの對策

- 54) Marco, a. a. O. s. 314.
55) Marco, a. a. O. s. 311.
56) Eheberg, a. a. O. s. 179. Terhalle, a. a. O. s. 533.
57) Terhalle, a. a. O. s. 532.
58) Terhalle, a. a. O. s. 533.
59) Lawrence, l. c. p. 39.
60) Lawrence, l. c. p. 42

前段にいふ如く、インフレーションには、長所もあるが、短所が少からず且つ其に重大なものがあるから、此は成るべく避くるやうにしたいものだ。勢の赴く所、止むを得ずして行ふたとしても速かに之が排除乃至緩和の努力を爲すことにしたい。其方法は下の如くである。

(一)事前策——インフレーションは成るべく避けたしといふことを前提として、之が爲めに擇るべき方策は、事前において、財政としては歳出緊縮か増税かに依るの外ない。尤もインフレーションには、人民の購買力を補給し、景氣を宣揚せんとする目的に出づることもある。即ち經濟及社會政策の目的を有つことがあつて、其は財政上の不足を補充する爲めに公債を選び其がインフレーションになるのとは異り、緊縮や、増税にては達せられない。そして實は我國の當局者がインフレーションに出でやうといふのは、一石二鳥を射やうとするもので、インフレーションによりて景氣を煽揚し且つ財政上の補填をしやうといふのである。一見巧妙の如くだが、何れにしても結果としては、やはり、上記のものを伴ふから、決して感心したものでなく、景氣煽揚としても、インフレーションよりは、むしろ克己努力の基礎の上に立つた堅實なる方策を以て進みたいものであるが、暫らく財政上の見地から公債、増税、緊縮の三のものを比較して、其通貨量に及ぼす影響を見ると、いふまでもなく公債がインフレーションに傾くのに對して、増税にても多少はインフレーションを生ずるし、獨り緊縮はむしろデフレーションに傾く、詳しくいふと、

(A)公債——によりたるときは、政府が公債にて得た通貨を以て物を購入するばかりでなく、公債應募者自ら其の得たる公債證書を擔保として借金して得たる通貨にて物を購ひ得るので、通貨

は起債前よりも増す傾がある。尤も公債に應募した通貨が個人の死藏したものたる場合の如きには、此が政府の手に移つて使はれても世の中に出て居る通貨の膨脹にならぬともいはれるが、併し此とても民間の手にありたるときは使はれずして政府の手に入りて使はれるのだから、結局流通する通貨は膨脹することになる。日本銀行背負込となれる公債の如きは、明かに其から得られる通貨の政府にて使用せられるだけは、通貨膨脹になる。そして應募者たる個人が公債に應ずる爲めに特に節約に促がされることは殆んど之なく、得たる利子にて在來の消費をつづけて往き其爲めに使ふ通貨の減縮を伴はぬが、公債に應ずると應ぜざるを問はず、一般人民は結局の處、其公債起債の爲めの負擔に任じなくてはならぬのだが、其負擔が租税に比して間接であり將來にかかるので、之が爲めに節約を促がされることも少い。いづれにしても通貨膨脹の可能性が大にして減縮可能性は小さい。

(B)増税——にては人民の購買力を政府に移すことになりて、公債のやうに、其あとに人民に購買力を残すといふことはない。だから、其れだけにては増税は通貨を増しもせず、減じもせずともいはれる。併し増税となると、人民は負擔が直接痛切であるからして、自ら從來よりも一層節約しやうといふことに促がされて、其消費を少くするやうになる。更に又、一層勤勵努力によりて購買力を増加しやうと努めることにもなる。結局、政府が増税によりて自ら追加した所の購買力は、其れだけ人民の購買力を減少した部分もあるが、又人民の努力によりて増加した部分もあるといふことになり、つまり通貨としても公債の場合ほどではないが、多少は、全體上増加する

ことにもなり得る。

(C)緊縮——であれば政府の通貨使用量を少くすることであり、少くとも通貨膨脹にはならぬ。

或はむしろ通貨を減少せしめるやうにもなり得る。其が他の増費だけを補填する爲めに、已むを得ず行はるる場合の如きには通貨は別に減少するといふことはないけれども、兎も角、此が通貨膨脹になるといふことだけではない。此場合には又、増税の場合のやうに、人民に特別な努力節約を促がすこともない。

(二)事後策——既にインフレーションが起つたとすれば、之を何うするか。

(A)根本策——はいふまでもなく、いやでもデフレーションを行ふの外ない。其には結局、新しき價值の大な紙幣(金屬貨幣に依屬したものか、新しき理想的なる調整貨幣か)と引換に、舊紙幣を回収するのである。⁶¹⁾之により通貨を異常量よりして正常量に引戻すべきであり、かくして一たびは一切のインフレーションの諸弊害を清算しなければならぬ。

(B)緩和策——インフレーションが續きつつありとして、其弊害を緩める爲めには左の方策の行はるることが望ましい。尤も此際に其の實現は容易ではない。

(い)第一は國民相擧つて節約を爲すこと⁶²⁾——である。此が出来れば、通貨の膨脹は多少とも仰制せられる譯である。政府がインフレーションを盛んに行つても、國民さへ相戒めて節約を旨としたならば、政府の使つた紙幣が、間もなく人民の手から銀行に預けられて、之が爲めに生ずべき物價騰貴を牽制するに足る。併しインフレーション時代に、かかる國民の自制心の發動を期待

61) Marco, a. a. O. s. 322-324.

62) Shultz, l. c. p. 73.

するのは實際六つかしいことで、大した効果はあるまい。で、獨り國民ばかりに之を行はしめずむしろ政府自らが進んで節約緊縮に出でるやうにならなくては駄目である。

(ろ)増税を行ふこと——によりて政府の出した通貨の少くとも一部を一般公衆から引揚ぐることにによりても、物價騰貴を抑制するを得る。⁽⁶³⁾此は前者が人民の自制力に待つと異り、政府の高壓によるから行ひ易い。此は實の處、我國の當局者も考へて居るのかも知れない。即ち目下は先づインフレーションで往き、随つて一方に公債増發により財政を賄ひつつ、景氣を煽揚し、其效果の現はれた處で、初めて物價騰貴抑制といふ名の下に増税を行はうといふのかも知れない。が、かかる場合、即ち物價の騰貴しつつある時代の如きには、増税は却つて當業者をして貨物の價格を引上ぐるの口實を得しめて、所期の效果を得難いといふこともあり得る。

結 論

以上要之、インフレーションは、其に定義を甘く與へることは六つかしいが、經濟上の實需に基かずして政治人爲的に行はるる通貨膨脹といふことで大體、宜しからうと思ふ。そして此は經濟上財政上に或働きを爲すものであつて、時に之に依るの外なきこともあるのであるが、併し其には齊しく經濟、財政上の弊害並に社會上の弊害の重大なるものがあるから、出來得るだけは之に依らずして、他の方法によりて處理するやうにし、既に此が現はれたときにも、之が弊害を緩和する爲めに出來るだけの努力を拂ひ、又むしろ一刻も早く之を根絶するの手段を講じなければならぬ。

63) Shultz, l. c. p. 73.